

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3650280211	
法人名	医療法人 真誠会	
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ	
所在地	徳島県鳴門市大津町矢倉四の越3番	
自己評価作成日	令和2年7月1日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和2年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成13年12月に開設された。事業所は旧吉野川河口の静かな場所に位置しており、ホームの周りには名産の鳴門金時が栽培され、芋や大根の成長を身近に感じる事ができる。館内では家庭的な雰囲気とゆったりとした時間が流れその中でのおんぶりと穏やかに暮らしが送られている。職員は入居者それぞれの生活歴を共有し、それぞれに出来る事をおこなっていただきながら個々の能力に応じた活躍の場を設けている。また快のキーワードを用いて日々のコミュニケーションを行っている。地域の老人会定例会や清掃活動、保育所の行事参加、自治会の花の植え替えや活動などさまざまな地域活動を展開し地域との交流を深めている。法人内の医師や看護師との医療連携を築いており、緊急時における体制も整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、“一人ひとりの思いを叶え 生きがいを見だし 住みなれた町でその人らしく暮らし続けられるよう支援する”という理念を掲げている。利用者一人ひとりのできることに着目し、菜園の畝づくりや調理の手伝い、モップがけなど、その人らしい生活ができるよう支援している。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、できることを検討し、利用者と職員で様々な作品づくりに取り組んでいる。つくった作品を市役所の展示会で出展するなど、生活のなかで新たな楽しみを見つけることができるよう工夫している。また、利用者一人ひとりがその言葉を聞くことで笑顔になれる“快のキーワード”を大切に捉え、運営推進会議や研修などの機会に、職員間で共有化を図りつつ、本人本位の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念を共有し、一人一人が住み慣れた場所で地域とのつながりを保ちながら、安心して、その人らしい生活が送れるよう支援をしている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。事業所内に理念を掲示して、職員間での共有化を図っている。職員は、理念を支援の原点と考え、利用者一人ひとりを尊重し、生きがいをもちながら暮らすことができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎月老人会の自治会等の行事に参加している。小学校の資源ごみ回収、地域の清掃活動や花植え、保育所の運動会などに参加し、地域住民との交流に積極的に参加している。	事業所では、地域の清掃活動への参加や保育園児の来訪を受け入れるなど、地域の一人として交流している。感染症(コロナ等)の流行下においても、散歩の際に近隣住民と挨拶を交わしたり、ボランティア関係者と手紙や電話で連絡を取ったりして、関係性の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修会などに参加し、認知症ケアについての啓発に努めている。また、高校生や看護学生、社会人の実習生を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの課題や取組などの事例を発表し、参加者から意見や提案などを出してもらいサービスの質の向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の状況を伝えたり、出席者から情報を得たりするなど、相互に意見交換を行っている。感染症の流行に伴い、市の担当者に相談し、運営について職員間で協議・検討するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の訪問が月に2回あり日頃の生活状況を見学されており、年に2回、市の職員も交えた介護相談員報告会が開催され、貴重な意見を頂くことによりケアの向上に努めている。また、運営推進会議にも出席して頂いている。	管理者は、定期的に、市の担当窓口を訪問し、事業所の取り組みなどを報告している。訪問時に、運営や諸手続等について、担当者から助言を得ている。また、市役所の展示会に、利用者の作品を出展するなど、相互に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室は施錠せず、外出しようとする入居者にはさりげなく一緒に同行するなど自由に行動して頂けるよう支援をしている。	事業所では、年2回、勉強会を開催し、身体拘束の内容や弊害等について、職員間での周知・理解を図っている。管理者は、拘束に関する基本姿勢を掲げ、職員間で話しあっている。やむを得ず、ベッド柵などを使用する場合は、全職員で協議し、法人内や家族等とも話しあったうえでやっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を職員間で回覧し、職員全員で日頃のケアが虐待に繋がらないよう注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症高齢者が不利益にならないよう成年後見制度や日常生活自立支援事業の資料やパンフレットを活用し理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約内容や重要事項について詳しく説明し同意を得ている。また、重度化やターミナルケアについても詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置したり家族会を開催するなど、家族が自由に意見を出せる機会を設けている。月2回介護相談員を受け入れ、入居者の意見などを聞いてもらえる場となるよう努めている。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を把握するよう努めている。家族等には、月1回、事業所だよりを送付したり、電話やSNSを活用したりして、意見等を確認する機会を設けている。把握した意見等は、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や思いをくみ取れるよう日頃からコミュニケーションを図っている。また、年に何度か気軽な雰囲気では話ができる場を設け職員のリフレッシュを図っている。	管理者は、日ごろから、職員の意見や提案をききとるよう努めている。年2回、職員一人ひとりと話す機会も設けている。ききとった意見等をもとに検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の勤務状況などを把握し、よりよい労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回定期学術勉強会を開催し、日頃の取り組みについて発表をしたり、外部研修会にも出来るだけ多くの職員が参加できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し研修会などに参加することにより、研修会への参加活動を通じて交流を図りサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人や家族と面談をし生活状況を把握することで、本人の思いに寄り添い安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の暮らしや家族の思いをしっかりと受け止めることにより、少しでも安心して頂き信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には自宅訪問や事業所への来苑があり、相談の機会を通じて本人や家族の思いや要望に耳を傾け、サービスの導入に活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴を把握し、一人一人の得意分野を引出し、日々の生活の中で発揮して頂ける機会を設け職員とともに助け合いながら共に生活しており、人生の大先輩として常に敬う気持ちを忘れないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の生活状態などを伝え、入居者が家族と共に過ごせる場を提供し、職員とも交流を持ちながらより良い関係を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ買い物に行ったり、行きつけの美容院へ行ったり友人に会う機会を提供する等馴染みの関係が途切れないよう支援をしている。また、ご家族のお墓参りにも出かけている。	事業所では、地域の老人会への参加など、利用者の馴染みの関係継続を支援している。感染症の流行下においては、家族や知人、友人等と手紙のやり取りを支援するなど、関係が継続できるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格などを把握し、孤立やトラブル等のないよう入居者同士が楽しく生活できるよう調整役として支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、これまでの情報を詳しく提供し、新しい環境でも継続して落ち着いた生活を送って頂けるよう関係を断ち切ることなく相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で入居者を良く観察し、本人の言葉や表情、しぐさなどから利用者の真意や意図をさし測ったり、思いや希望を把握するよう努めている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりの中で、言葉や表情などから、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、利用者一人ひとりが笑顔になれる“快のキーワード”を取り入れて、言葉かけや支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を職員間で把握し共有することで日々の介護に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の日頃の様子をしっかりと観察し、関わりを持つことにより現状の把握に努め、職員間で共有し統一したケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で利用者の意向を把握し、カンファレンスで家族に意見や要望等を聞いたうえでアセスメントやモニタリングを行い、変化に応じた見直しを行っている。	事業所では、利用者や家族等の意見や希望などを踏まえた介護計画を作成している。本人本位かつ実現可能な計画となるよう、関係者間で話しあっている。定期的なモニタリングのほか、本人の心身状況の変化に応じて、随時、見直しもやっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事や水分量、排泄などの身体状況を記録しており、生活の様子や言動、体調の変化なども記録し、職員で確認と共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、都合などに合わせて医療機関への送迎を行っている。また、馴染みの場所や買い物等の外出を支援し、一人一人の満足度を高められるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での生活を続けられるよう、保育所や小学校、老人会や自治会と連携を図っている。運営推進会議の参加者と連携を密にとり情報交換や協力関係づくりに努めている。また、消防署員による消防指導を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にそって利用前からのかかりつけ医を受診できるように通院助助を行い、継続して適切な医療が受けられるよう配慮している。また、かかりつけ医と情報交換を行い関係を密にしている。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。本人の心身状況について、家族や協力医療機関等と共有化を図りつつ、適切な医療を受けることのできる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携サービスを整備し、看護師と日頃から利用者の健康管理や状態変化に応じた支援が出来るよう関係を築いている。体調の変化があった時には連携記録を備え適切な医療が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する情報を医療機関に速やかに提供し、入院によるダメージを最小限に食い止めるよう配慮し早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を尊重し、医療機関と職員が連携を図り、重度化や終末期のあり方について出来るだけ早期から話し合いの場を持ち、対応方針の共有を図り支援に取り組んでいる。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期の方針について、利用者や家族等に説明し、意向を確認している。本人の心身の状況変化に応じて、随時、家族等の意向を踏まえつつ、医療関係者などと連携し、チームで支援に取り組んでいる。また、職員は、法人が開催する看取り等の研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を修了しており、心肺蘇生法や人工呼吸法を取得している。また、医療機関への正確かつ迅速な情報提供が行えるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の配置と消防計画を消防署へ届けられている。年2回消防訓練や消火訓練を实地し火災時に備えている。また、運営推進会議でも地域の方に協力をお願いしており地域の防災訓練にも参加している。	事業所では、年3回、消防署等の協力を得て、避難訓練を実施している。火災や水害等を想定し、利用者とともに垂直避難などを行っている。地域で開催される防災訓練にも参加して、協力関係を築いている。食料等も備蓄して、災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、人権を気遣う心を持ち、利用者を主役としたケア、介護される立場に立ったケアを実践している。	職員は、利用者一人ひとりを人生の大先輩として尊重しつつ、本人のできることを大切にされた支援に取り組んでいる。入浴の際に、希望に応じて同性介助を行うなど、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の利用者の表情やしぐさ、態度などから思いに寄り添い、本人が自分の意志で決められるよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムをやベースを尊重し、ご自分で意志決定できるよう支援をし、一人一人の状態や思いに配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを尊重し、その人らしいおしゃれができるよう支援をしている。月に一度、美容師が来苑し、利用者の希望にそった整髪を支援している。また、馴染みの美容院への予約、送迎を行うなど要望にお応え出来るよう支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の作成した献立にそって入居者と共に買い物に行き、食材選びから、下ごしらえや調理、盛り付け、配膳など職員と一緒に、楽しい食事となるよう支援をしている。また、好みに合わせて毎朝パン食を提供している。	食事は、三食とも事業所で作っている。皮むきや卵焼きなど、利用者一人ひとりの得意なことを活かし、生きがいに繋げるよう支援している。利用者と職員と一緒に育てた野菜を献立に加えるなど、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した献立によりバランスの取れた食事を提供している。毎日の食事量、水分摂取量も記録し食事量の少ない方には医師の指示のもと捕食を提供するなど栄養管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアがQOL向上に必要であることを理解し、毎食後、利用者の能力に応じて見守りや声掛け、介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーや自尊心を傷つける事のないよう心がけ、一人一人の排泄のサインやパターンを把握し、さりげない誘導や声掛け介助を行い出来るだけトイレでの排泄を促し能力に合った支援を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けて支援している。本人の心身状況等に合わせ、負担なく排泄できるよう取り組んでいる。さりげない声かけやトイレ誘導を行うなど、羞恥心等にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の入居者には、水分補給や適度な運動を促し、できるだけ薬に頼らないよう対応している。また、排泄チェック表を作成し、排泄パターンを全職員で把握できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に応じて好きな時間に入浴して頂けるよう支援をしている。また、羞恥心や自尊心を傷つけることのないよう、無理強いをすることなく、ゆっくりと入浴を楽しんで頂けるよう支援をしている。	事業所では、週に2~4回は入浴できるよう支援している。利用者が入浴を楽しむことができるよう、個別に入浴している。一人ひとりの希望に応じて、入浴時間を変更したり、同性介助をしたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣などを把握しながら、できるだけ規則正しい生活を送って頂き、良眠を促している。また、眠れない方にはお茶を飲みながらお話を伺うなど、安心して頂けるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤一覧表を作成し、薬の効能や副作用について理解し、飲み忘れのないよう見守りや介助を行っている。また、誤薬を防ぐ為に職員がチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や買い物、家庭菜園や編み物、オセロや将棋など、利用者が好む趣味などを提供し役割として担って頂くことで生きがいを感じていただき楽しみながら気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の花見やドライブ、阿波踊り見物や地元の名産品などに出かけたり、希望にそった場所、喫茶店などにも出かけられるよう支援をしている。	事業所では、季節ごとの花見やドライブ、阿波踊りの見物など、多様な外出支援を行っている。感染症の流行に伴い、対策を講じつつ、事業所周辺を散歩したり、菜園で野菜を育てたりして、外気を感じることもできるよう、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解を得て所持金を持たれている方もおられ希望に応じた買い物をしていただいている。また、混乱のないよう声掛けや見守りをし、出来るだけご自分で支払うことが出来るよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望や職員の声掛けにより電話やお手紙などを発送し、遠方の家族の方や知人の方との関係が途切れてしまうことのないようよう支援をしている。毎年の年賀状は家族に大変喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内の各場所には分かりやすいように大きく表示をしたり、四季折々の掲示をし季節感が感じられるよう支援をし、季節ごとに花や野菜を育て収穫を楽しまれている。	共用空間は明るく、調理の音やにおいなど、家庭的な雰囲気を感ずることができる。利用者とともに、床のモップがけなどを行うことで、清潔感を保ちつつ、一人ひとりのやりがいに繋げるようにしている。季節の花や作品を飾るなど、季節感を大切にしている。感染症の流行に伴い、換気も心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が各居室で自由に過ごせたり、リビングではソファでTVを観ながら談話をするなど、入居者同士が思い思いに寛げる空間を館内に設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族やご自身から得た情報を本に、慣れ親しんでいる家具や写真、楽器や寝具などを持ち込んでいただきご本人が安心して過ごして頂けるよう支援をしている。	居室には、利用者の使い慣れた家具や小物などを持ち込んでもらっている。掃除やシーツ交換など、利用者と一緒にすることで、生活のなかでやりがいを感ずってもらうことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体機能の状態に合った手すりや取っ手、家具などが設置されており、安全で使いやすい工夫されている。また、混乱などのないよう見守りや介助を行い自立支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が地域密着型サービスの意義を理解するため、毎朝の朝礼で理念の復唱を重ね地域生活の継続支援とホームと地域の関係性を重視した理念を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会、小学校、自治会、保育園などの行事活動に参加している。老人会では月例会、地域の清掃活動、自治会の花植え活動、保育園運動会などにも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会あるごとに会合や研修会に参加し、認知症ケアの啓発につとめており、高校生や社会人の実習の受入を積極的におこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの課題や事例を紹介し、委員さんからの意見や提案をいただき、ケアの質向上へとつなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	鳴門市の事業である介護相談員の受け入れ先として、介護相談員さんからの提案をいただいたり、年2回の介護相談員報告会では、長寿介護課担当者の方も交えケアについて話し合いの機会を持っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は居室、玄関扉などにカギをかけず、自由に入出りができるようにしている。その他、様々な行為が行動の制限につながっていないか点検し、ホームでの自由な暮らしを支えるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を回覧し、その内容を遵守することはもとより、ひとつひとつのケアが虐待行為にあたらないよう省みるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症状にある高齢者が不利益を被らないようにある「成年後見制度」や「日常生活自立支援制度」を資料やパンフレットなどを通じて理解を深め、適宜その概要をご紹介するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、契約内容や重要事項について時間を取り、合意に努めており、重症化の場合の指針や看取りケアについて説明している。また、各加算についても説明の上、同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や館内2カ所に設置している意見箱を利用していただき、ご家族様が自由に意見を示せる機会を作っている。また、月2回に介護相談員さんを受け入れており、気楽に話せる仕組みがある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長はホームによく足を運んでおり、機会あるごとに職員の思いや希望を聞くようにコミュニケーションを図っている。宴席を設け気軽な雰囲気の中でこだわりなく話せるよう配慮し、リフレッシュを図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長は、足繁く現場に来ており、入居者と共に過ごし、より良い労働環境づくりに配慮している。また、日本GH協会理事としても介護職の待遇改善に率先垂範して取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期学術勉強会として、取り組みの成果を題材に、各部署の職員が講師となり、学びを深める仕組みがあり、職員の質向上につなげている。また、徳島県主催の実践者研修をはじめとして、GH協主催の研修会にも最大限の参加を計画、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会 徳島県支部の管理者研修会や相互評価事業などに参加し、同業者との交流を図り、質向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や契約前には、同意の上、ご自宅を訪問し在宅時の生活状態の把握に努めている。また、法人内の他部署において利用歴のある方には、担当者と連携して現況をつかみ、初期段階の関係づくりにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の暮らしの姿やサービスの利用歴などから、家族のお話を傾聴し、その思いやニーズ、要望をつかみ、ケアにつなげるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、ご家族様ご本人様同意の上、来苑いただくか、ご自宅を訪問させていただき、相談の機会を通してご本人様やご家族様の思いや要望に耳を傾け、サービス導入時に活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の力の発揮できる場面を設け、職員が利用者から学ぶというあり方により、人生の先輩として敬意を払うような配慮を講じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の際などには、日頃の利用者様のようすや思いをお伝えし、ご本人を支えていくための協力関係を築き、ご本人とご家族の橋渡し役を担っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の知己者やなじみの地域資源との関わりを重視し、これまでの関係が途切れてしまうことのないよう来苑をお願いするなど、関係の継続性に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や個々の特性を共有し、良好な関係性が築けるよう、日頃から個別に話を聞いたり、豊かに語らいの時を持つなど、調整役として支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居により、新しい生活環境に移られた後もこれまでの関係で得た情報を引き継ぎ、なじみの関係が再構築できるよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、ご本人の言葉はもちろん、表情や仕草などから、その真意や意図を推し測るなど、なじみの関係の中で得られる意思の疎通を重視している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の歩んでこられた長年の生活歴を知り、敬意をはらいながらその中で大切にされてきた事やエピソードを生かし、ご本人の持つ力が発揮できるような場面づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活歴から、長い間営んでこられた生活リズムをつかみ、それを職員全体が共有した上で利用者一人ひとりの姿を見つめ、ご本人の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの様子をもとにご本人の意向とご家族の要望を聞いた上でアセスメントやモニタリングを行い、設定期間はもとより変化に応じた見直しに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事摂取、排泄、水分摂取などの身体状況を記録し、暮らしの様子やご本人の言動や意図、エピソードなどを書き留めている。また、ケアに必要な書類は、就業前には全職員が目を通すことを義務づけており、情報共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や都合にあわせて、医療機関への送迎やなじみの場所への外出や買い物に出かけるなど、個々の満足度を高めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心してホーム近隣の地域での暮らしを続けられるよう小学校、地区老人会、保育園、自治会と連携したり、運営推進会議の委員さんたちとの関係を強化し、情報交換や協力関係づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医には、ご本人の希望や家族の状況により、通院介助を行い、継続した医療が受けられるよう配慮している。また、かかりつけ医との情報交換を行い連携に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師との医療連携が結ばれており、日常的に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援がなされるように整えている。体調変化の場合は、連携記録を備え、適切な医療が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人に関する情報をサマリーとして要約し、医療機関に向けて速やかに情報提供しており、入院によるダメージを最小限に食い止めるよう配慮し、早期退院へ寄与できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人や家族の意向を重視し、医療職とホームの職員が連携をとりながらやすらかな最後が迎えられよう努めている。「重度化にかかる指針」を策定しており、契約前には内容の説明の上、同意していただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が普通救命講習を修了しており、心肺蘇生法や人工呼吸法を習得している。また、医療職への正確かつ迅速な情報提供が行えるよう整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の配置と消防計画を鳴門消防本部へ届け出ており、年2回の避難訓練、消火訓練を実施し火災に備えている。また、運営推進会議委員メンバーにもお願ひし、火災はもとより、その他の災害に対する協力をも得られるように整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人を尊重する気持ちや人権を気遣う心を持ち、利用者を主役としてケア、介護される立場に立ったケアを実践している。また、情報漏洩には厳格に対処し守秘義務の遵守に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の表情、視線、しぐさ、態度など言葉にならない言葉に心を寄せ、ご本人の意志を捉え、自己決定の場面やご本人の意図の実現に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課を優先するのではなく、これまでのご本人の生活リズムやペースを尊重し、ご本人の希望や意図に沿った暮らし方を大切にしている。日々の過ごし方をご自身が決められるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣やみだしなみなど、こだわりや好みなどを尊重し、ご自身が選んだ服や髪型に整えるお手伝いしたり、女性にはお化粧の支援を行ったりしている。また、月に一度、美容師が来苑し、希望に添ったカットやセットが受けられるよう連携している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士によるバランスの取れた献立を基本として、利用者さんの希望するメニューを取り入れたり、献立に応じた買い物に出かけていただき、調理や盛りつけをともに行いながら、食事が楽しみになるよう工夫を重ねている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、カロリーの過不足に考慮しバランスの取れた食事を摂取して頂くように配慮している。また、毎日3食の摂取量を記録し、及第量に及ばないときは、その原因を究明するとともに、医師の指示により高カロリー飲料を補食していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全職員は口腔ケアがQOL向上に必要であることを理解し、毎食後の義歯の手入れや洗浄を重要業務と位置づけ、能力に応じて見守りや介助をしながら、口腔の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーや自尊心を傷つけないようさりげないトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を大切にしている。また、排泄チェック表により、個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、水分補給を勧め散歩や体操などの適度な運動を行うなど、体を動かすことで便秘解消につなげるように努めている。また、排泄チェック表の記録により、排泄パターンを把握し、下剤や軟化剤の使用が習慣化しないように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯を設定せず、好きなときに入浴できるよう整えている。また、入浴時には同性介助を希望する方には、配慮するなど、プライバシーの保持や自尊心を傷つけないよう心配りしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地良く入眠できるため「日中活動」に視点をおき、生活リズムを整えるよう努めている。また、うまく入眠できない方には、ご本人のお話しに耳を傾けたり、お茶をお出しするなど安心していただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の使用薬剤一覧を作成し、個々の利用者がどのような薬剤を服用し、どのような効能や副作用があるかを家族とも情報共有している。また、医師との相談の上、潰し状に加工したりして、服用しやすく工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や買い物、野菜作りやキーボード演奏など利用者の持つ力が発揮できるような機会や場面を作り、役割やできることを担っていただくことでやりがいや生きがいにつなげたり、気分転換や楽しみの機会としている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、阿波おどり見物、四季折々の風物詩、興味関心のあった場所や行事に出かけるなど、外出が楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中には、ご家族の了解を得た上、所持金を持っていただいている方がおられる。買い物時にはご本人の好みの品を買い、ご自身による支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話の発受信やお手紙やはがき発送を支援し、家族や友人、知人など親しい方々との関係が途切れてしまうことのないよう配慮している。毎年の年賀状はご家族に喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の五感への影響や利用者間の相性、使いやすさや分かりやすさに配慮し、大きめの表示やマークを掲示し、共用空間での不安要素を解消している。また、館内各所には四季折々の小物や植栽を施し、リラックスできる環境を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性や関係性、個々の状態の変化に応じ、ひとりや仲の良い利用者で過ごせるように廊下にはベンチ、玄関先にもベンチ、ユニット2には座敷、庭にも椅子を配置し、くつろげるスペースを館内外随所に設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のこだわり、愛着、なじみの物など個々に持っている価値観を尊び、ご家族やご本人の話しに耳を傾け、そこから得られる情報に基づいた家具や写真、楽器、寝具を持ち込んでいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内外には、手すり、取っ手、無段差、案内表示、家具などが配置されている。また、利用者の不安や混乱困惑に対する見守りや声かけが十分になされることが自立支援にとっての重要な「環境」であることを理解している。		